

## 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

## 京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



クリエイツかもがわ

CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <http://www.create-k.co.jp>

TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料240円(5000円以上無料)



障がいのある  
子どもと  
家族の伴走者  
えがおさん物語  
ファン

下川和洋／監修

A5判160頁 1800円＋税

松尾陽子・阪口佐知子・岩永博太・  
鈴木健太・NPO法人 えがおさん／編著

制度ありきでなく、どこまでも障がい児者、  
家族に寄り添う支援の原点ここにあり  
障がいのある子どもたちと家族が困っている  
ことを最優先に考え、制度・職種にこだわら  
ない、持続可能な支援のカタチを求め、障  
がい児者と家族とともに歩む物語。



子どもたちが  
笑顔で育つ  
ムーブメント療育

写真・イラスト多用  
明日からの実践にすぐ使える！

小林芳文／監修

B5判カラー156頁 2200円＋税

小林保子・花岡純子／編著

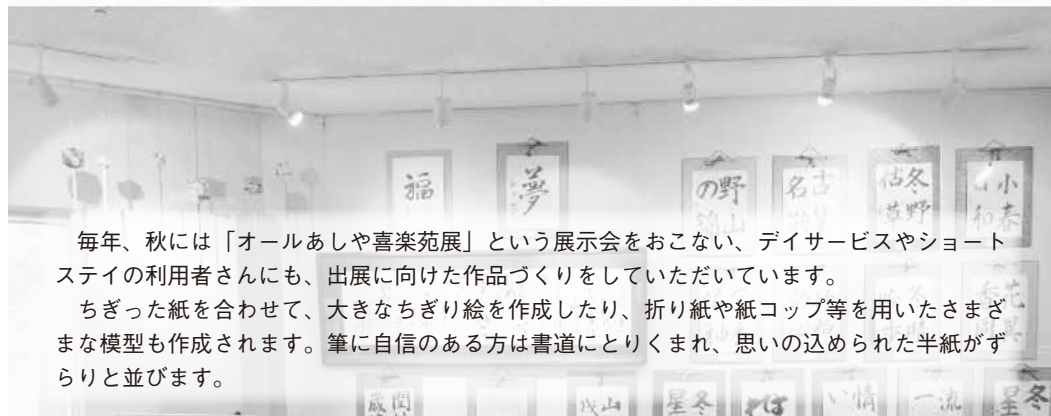
重い障がいのある子どもたちへの実践から、  
子どもと家族を笑顔にし、  
発達を支援するムーブメント教育・療法

子どもの育ちの原点である楽しい運動遊びを  
通して「からだ(動くこと)、あたま(考えること)・  
こころ(感じること)」の発達を応援するムーブ  
メント教育・療法のノウハウを紹介。



## 福祉は文化

さまざまな文化活動を通じて、ゆたかな生活と地域交流を



毎年、秋には「オールあしや喜楽苑展」という展示会をおこない、デイサービスやショートステイの利用者さんにも、出展に向けた作品づくりをしていただいています。

ちぎった紙を合わせて、大きなちぎり絵を作成したり、折り紙や紙コップ等を用いたさまざまな模型も作成されます。筆に自信のある方は書道にとりくまれ、思いの込められた半紙がずらりと並びます。



千里フィルハーモニア大阪のみなさまにご協力いただき、おおむね年に一度、クラシックコンサートを開催しています。40名程度の楽団の方々と、入居者さんや利用者さん、ご家族など、100名以上の参加者が一堂に会し、迫力満点の演奏を特等席で鑑賞させていただきます。往年の名曲から、なじみ深い唱歌等の演奏も披露いただき、また、終盤には生演奏に合わせた社交ダンスの時間もあり、優雅で文化的な時間を楽しんでいます。



近隣にある、兵庫県立芦屋高校とも交流をさせていただいています。

吹奏楽部のみなさんには、最近の話題曲から童謡・唱歌など、さまざまなレパートリーから演奏していただきます。書道部のみなさんは、大きな筆と用紙を使って、迫力のある書道を披露してくれます。茶道部のみなさんには、目の前でお茶をたてていただき、和菓子と一緒においしくいただきます。利用者みなさんも、高校生の元気な姿を見て、たくさんのエネルギーをいただけたようでした。



ケアハウスにお住いの林三女子<sup>みめこ</sup>さんが日々作成されている作品を集め、館内のギャラリーで個展を開かれました。水彩画色鉛筆という、少し特殊な画材を用いられ、季節ごとに描きあげられた作品の数々です。絵葉書サイズのものからB4サイズのものまで、さまざまな作品がならべられ、色とりどりの空間に和みと癒しをいただきました。

今年は、利用者さんや内部関係者に向けたイベントや展示会となりましたが、以前のように、地域の方や外部の方とも交流いただける場が再開できる日を心待ちにしています。

(写真・高齢者総合福祉施設あしや喜楽苑、文・田中清史)

## 【ひろばトーク】

自己犠牲の育児をなくしたい！ バブリーたまみ 6  
もう十分がんばっているママたちに伝えたいこと

## 福祉のひろば

2020年11月号

### ●特集● ここは天国 釜ヶ崎 生きるを耕してきた“文化”

|                       |       |    |
|-----------------------|-------|----|
| お互いの表現を認め合うことを大切にしたい  | 上田假奈代 | 12 |
| 異質な者と触れ合うなかで生まれる釜ヶ崎文化 | 水野阿修羅 | 16 |
| 人が生きるために、衣食住と文化はセット   | ありむら潜 | 18 |
| 【トーク】ひと、まちをゆたかにする“文化” |       | 20 |
| 紙芝居劇むすび しなやかで緩やかなつながり |       | 24 |

### ●トピックス●

|                                 |       |    |
|---------------------------------|-------|----|
| 丸投げ政治家につけるワクチンないものか!? ハテナハテナ    | 岡 大介  | 30 |
| 【PHOTO】コロナ禍でも、工夫してがんばってます☆      |       | 34 |
| 障害者生活施設での新型コロナウイルス集団感染を経験して【前編】 | 園部 泰由 | 38 |
| 73%の高い投票率で村民が選んだ代表者 関口ほづみ・鈴木鉄雄  |       | 44 |
| 『福祉のひろば』編集委員 新メンバーでスタートします!     |       | 48 |

### ●連載●

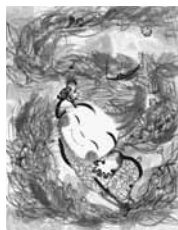
#### WORK WORK——わくワク——

|                                |            |    |
|--------------------------------|------------|----|
| トップパティシエ監修の焼き菓子づくりで工賃アップをめざす!  |            |    |
| 特定非営利活動法人コミュニティワークス 地域作業所 hana |            | 52 |
| 検証! 介護保険20年                    |            |    |
| 第2回 特別養護老人ホームからみる介護保険          | 岡本多喜子・大美賀享 | 54 |

#### ★新連載★かさねあい、はぐくみあう保育実践

|                         |        |    |
|-------------------------|--------|----|
| 保育の連載をはじめににあたって         | 上西 克明  | 58 |
| 阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎(16)   | 水野阿修羅  | 62 |
| 相談室の窓から                 |        |    |
| 早急に、配慮が必要な方のコロナ感染対応の整備を | 青木 道忠  | 64 |
| 育つ風景 おとなのことばの威力         | 清水 玲子  | 66 |
| ひととしてあたりまえに生きたい         |        |    |
| 大阪ろうあ会館事務局長として(6)       | 清田 廣   | 68 |
| 映画案内 『ディリリとパリの時間旅行』     | 吉村 英夫  | 70 |
| 現代の貧困を訪ねて               | 生田 武志  | 72 |
| 安倍長期政権は日本をどう変化させたのか     |        |    |
| 似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート   |        |    |
| 動かぬ写真が曲者なのじゃ!           | ラッキー植松 | 74 |
| ホームレスから日本をみれば           | ありむら潜  | 76 |
| 花咲け! 男やもめ               | 川口モトコ  | 77 |

#### ●表紙の絵● 神門やす子



みんなのポスト 50 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

●グラビア● 福祉は文化 さまざまな文化活動を通じて、  
ゆたかな生活と地域交流を

# 自己犠牲の育児をなくしたい！ もう十分がんばっている ママたちに伝えたいこと

ママ界のエンターテイナー バブリーたまみ

バブリーたまみ誕生のきっかけは、親友の結婚式でした。「おもしろく友人スピーチして」と依頼され、そのとき流行っていたバブルネタをとりいれてスピーチをしました。後日、かるはずみでユーチューブにアップしたら、バズってしまいました(笑)。その動画を見ていた地元の子育て支援センターから「この格好で遊びにきて〜！」と言われたことをきっかけに、ママたちが笑えるダンスや絵本の読み聞かせをしたら、ママたちがすごく笑ってくれました。そのとき「もしかしたら私らしいかたちでママたちに笑顔を届けることができるかも」とふと思いつき、思い切って「脱サラ」をして、ママ界のエンターテイナー活動をはじめました。

活動はおもにSNSをとおして、「ママの笑顔がいちばん」をモットーに、ママたちの心の代弁者として配信しつづけています。ブログは一日十万アクセス以上、インスタは現在三万人のフォロワーがいます。また、作詞活動をし、二〇一九年と二〇二〇年にキングレコードからアルバムをリリースしました。音楽の力をかりてママたちに歌のメッセージを届けるため、全国ツアーやコンサートを開催し、子育てイベントにも出演しています。もう十分がんばっているママたちへの想いを書いた私の曲を通じて、自分を責めて孤独とたたかっているママを、一人でも多く救いたいと思っています。

私自身、一人目を妊娠したときに、「お母さんになるんだからがんばらないと！」と思っていました。でも、いざ出産したら子育てのたいへんさは想像をはるかに超えていました。生まれてきた息子をみながら、心配と不安で吐き気や冷や汗が止まらなかったこともありました。泣いている我が子を抱っこしながら、「泣きたいのはこっちだよ……」と言って一緒に泣きました。その手を離したくもありません。ほかのママと比べ



## バブリーたまみ

福岡県出身。東京在住。4歳とゼロ歳の男の子、二児のママ。  
YouTubeやSNSで独自の世界を配信。Instagramではフォロワーが3.5万人、アメバオフィシャルブロガーとしても活躍（2020年9月現在）。2019年キングレコードからCDデビューを果たし、2020年9月に2枚目となるアルバム『ママ、いっしょに幸せになろうね』をリリース。  
「ママの笑顔がいちばん」というメッセージを日本中のママたちに届ける活動をしている。

てうまくいかない自分を責め、夫に八つ当たりして、精神的にも肉体的にもボロボロで、本当に孤独でした。いわゆる、産後うつでした。

必死に育児をしているときに、友人の結婚式で声がかかり、自分が母親であることを忘れて「バブリーたまみ」になりました。むかしから踊ったり歌ったり、人を笑わせることが大好きだったので、そうした子育てで忘れかけていた「自分らしさ」を取りもどすことができました。そして、バブリーたまみをきっかけに、自分のすべてを犠牲にする育児をやめました。「お母さんはこうじゃないといけない」をやめてみんです。自分が好きなことをして心が満たされると、はじめて家族に感謝できるようになりました。家族にも笑顔がもどってきました。

そんな私の経験から、「お母さんは立派でないといけない」「お母さんはがんばってあたりまえ」ではない、社会のママたちに対するきびしい文化を変えたい、と思うようになりました。評価もされない、マニュアルもない育児は、正直言うとなんて楽しいことばかりではないです。子どもたちがいちばん好きなのは「ママの笑顔」です。だからこそ、ママである自分自身をないがしろにせず、犠牲にせず、自分自身を大事にすることが、子育てでは本当に大事なことでと思います。私自身も、犠牲にしすぎる育児をやめて、はじめて学ぶことができました。孤独に感じることもなくなりました。今後はママだけではなく、パパにも私の考えや想いを発信していきたいと思っています。

二〇二一年からは全国ツアーも再始動していきます！ 信念を曲げずにママたちの気持ちをすこしでも楽にできるように、代弁者として、歌やメッセージを発信しつづけていきたいと思います。めざせアリーナ!!

# 文化が人をゆたかにし、 人が文化をゆたかにする

今号の特集は、文化について考えてみました。コロナ禍でライブハウスや劇場などの公演が中止・休館となり、文化・芸能を仕事にする人たちが経済的保障を求めました。しかし、「好きなことをしているのだから自業自得だろう」という批判も多く、文化事業に対する政府の保障も、諸外国にくらべてきわめて遅く、弱いものでした。ドイツの文化大臣は同じコロナ禍、「芸術は必要不可欠であるだけでなく、生命維持装置だ」とし、大規模な支援をおこなっています。

同じ時期、本誌九月号のトークで、隆祥館書店の二村知子さんにご登場いただきました。二村さんは、「本は文化」だと話され、「経済を回しているのは人ですが、人をゆたかにするのは文化。経済と文化はおなじくらい大事」と話してくださいました。

どうして日本では、文化に対する意識がこれほど低いのか、それは社会のあり方にどう影響するのだろうか、と疑問に思ったことが、今回の特集を組むことになったきっかけです。

本誌の連載者でもある水野阿修羅さんやありむら潜さんは、長く釜ヶ崎で文化活動にかかわり、文

化を大事にされてきています。毎年夏には「釜ヶ崎夏祭り」や淀川工科高校の「たそがれコンサート」が開催され、「紙芝居劇むすび」や「NPO法人ココルーム」の活動など、釜ヶ崎での文化活動はとてもゆたかで、多岐にわたります。

文化活動が釜ヶ崎の人々や釜ヶ崎という地域に、どのような影響を与えているのでしょうか。それは、日雇い労働者、生活保護利用者、野宿者が多い貧困地域において、「文化」がどのような役割を果たしているのかということであり、憲法二五条でうたわれている「健康で文化的な最低限度の生活」の「文化的な」の意味を考えていくことでもあります。

「文化的な生活」と言われると、ギリギリの衣食住だけでなく、スマホをもつことができたり、年に一度くらいは旅行に行けたり、趣味のものを買えたり、さらに言うところケストラを鑑賞したり、美術館に足をはこんだり……「ちょっとした贅沢」というイメージがありませんか？（私はありました。笑）

釜ヶ崎での「文化」のありようは、人に生きる力を与えるものであり、同時に、文化の種は一人ひとりのなかにあることがわかりました。文化が人をゆたかにし、人が文化をゆたかにする。社会福祉施設において、季節の行事や文化活動を守り大切にしてきたこと、これからも大切にしていく意義を、あらためて感じました。

（編集主任）